



田嶋 康利

日本労協連は来る6月27～28日、ニッショーホール(東京・虎ノ門)において第35回定期全国総会を開催する(センター事業団第29回総代会は28～29日)。

今、世界は金融資本主義の危機とグローバル経済による富の一極集中と地域経済・社会の崩壊、そして貧困や格差の拡大、労働の破壊を極限まで進めている。また、我が国における国家主義に基づく「戦争ができる国づくり」への危険な兆候は、働く人びとや市民の生活や労働の危機を一層深化させていくと同時に、福祉の抑圧、基本的人権の破壊、とりわけ人びとから自治の権利を奪い去ろうとしている。しかも、これから日本社会は成長なき人口減少社会、超少子・超高齢化社会という戦後誰も経験したことの無い未曾有の歴史的事態に突入する。この流れの基調は、2060年頃まで続くと言われている。

それら外的環境が大きく変化する歴史的転換期の中で、生活と地域の必要に応える事業運動を推進する協同労働の協同組合(ワーカーズコープ)は今も着実に発展を続け、さらにその果たす社会的・歴史的役割や期待は今後一層大きくなるものと確信する。

私たちは、地域の社会資源を活かした第一次産業の再生を展望した新たな事業への挑戦、地域で自給循環するコミュニティ経済の再生と就労創出・仕事おこし、市民が労働力を持ち寄って協同組合設立に参加す

る新しい経営路線としての社会連帯経営の確立と社会連帯運動の本格化、そしてそれらの事業運動の中心となる総合福祉拠点づくりに本格的に挑戦する。これからの50年、社会の歴史的転換期において、日本社会が明日への希望と未来を切り拓くものとなるよう、日本労協連は第35回全国総会において中長期的な協同労働運動の発展に向けた新しい方針と「協同労働の協同組合」新原則案を提起する。

先日6月5日、安倍首相はG7開催中のベルギーにおいて、「集团的自衛権の行使容認に向けた解釈改憲を今国会中に閣議決定する」との指示を出した。これは、交戦権の保持を内外に宣言すると同時に、東アジアや世界に一層の緊張を拡大し、まさに「戦争をする国づくり」へと道を拓くものであり、決して許してはならない。このことを含めて、連合会第35回全国総会、センター事業団第29回総代会は、通常の総会、総代会とははるかに重い意味を持つものになると考えている。

協同総研の会員・研究者の皆さんも、ぜひ労協連総会、センター事業団総代会にご出席いただければと思う。

※労協連第35回定期全国総会：2014年6月27日(金)10：30～28日(土)12：00  
センター事業団第29回総代会：2014年6月28日(土)13：00～29日(日)16：00  
会場は、いずれもニッショーホール(東京・虎ノ門)

# 働く若者 自信回復

## 立場平等・経営に参加 ワーカーズコープ

働く人が出資し、経営するワーカーズコープ。中高年の失業対策として始まった活動に、若者の参加が相次いでいる。競争社会のなかで自信を失い、居場所をなくした若者が、上下関係のない職場環境のなかで自分をとりもかましている。

成田市でほど近いワイカーズの製油所「あぐり」(千葉県芝山町)。空港を飲食から廃食油を回収し、バイオディーゼルの燃料(BDF)をつくる。創業3年、1日の生産量は200リットルと少ないが、ここで働く若者は、リサイクル社会の實現に貢献するという

誇りを抱く、その一人、魚住亮輔さん(21)は高校を卒業し、メーカーに就職。自分に自信がたど感じた。自暴自棄にな

なく、周りが優秀に見える社内競争で敗れ、このまま無用な社員になるだけだと感じた。自暴自棄にな

つて3カ月で退社し、4年間、部屋に引きこもった。「生き残る生き残る、この世は残酷になる。そう思い、自殺も考えた。

石井大介さん(27)は高校卒業を控えた時期に両親を病で亡くした。そのショック

くと、バイト先で経営者として大目玉をもらったことで自信を喪失、卒業しても親戚宅で4年間、引きこもった。

2005年、千葉県内でニートや引きこもりを対象にした「若者自立塾」をワ

1カースが始めた。2人は1期生になった。だが、3カ月の共同生活で自信がつくわけもなく、卒業後もバイトを転々としていた。

そんなとき、ワーカーズからBDF事業に参加しないかと声がかかった。自分を変えたい。2人は11年4月、創業と同時に働き始めた。

(68)元私立大職員で、世の中から使い捨てられる若者に心を痛めてきた。「君たちをどうでも使用する人間にする。あざむきの仕方から教えた。ほめて、叱って、なだめて、手料理を食べさせ、ニッチエの格闘家を薦めた。

2人は約15万円の自己収から5千円ずつ20回払いで10万円を出資。原田さんと同額になった。会議では入りが交代で会議のリーダーを務める。魚住さんは廃食油取扱者の資格を取得。石井さんも猛勉強中だ。

「成長した彼らに頼りたい」と原田さん。経営業の省の助成を受けたラント拡張工事が始まった。夏には廃食油の処理能力も倍になり、月収を上げられる。2人の視野に悪化を結晶も入っていった。

石井さんは「後輩が入ったら指導できるくらいになります」と笑う。魚住さんも「笑みを浮かべながら、一本木を信じるようになってきました。しっかりと生きていきます」。

援などに事業を広げている。日本にはこうした事業を規定する法律がなく、形態はNPO法人など様々。イタリヤなど欧州では100年以上前から活動している。

- ワーカーズコープの目標
- ◆「人間らしい労働」を最高の価値とする
  - ◆すべての人が、共に生きる福祉社会をつくる
  - ◆出資しあい、一人一票で経営に参加する
  - ◆地域がかかえる課題の解決に役立つ事業、活動をする
  - ◆自立し、愛に満ちた人間に成長する
  - ◆「資本のグローバル化」による大量失業と人間の排除に対して、「民衆のグローバルな連帯」をすすめる



●魚住亮輔さん(左)と石井大介さん。手にはBDFの製油所「あぐり」の性能を語る。千葉県芝山町。

●お年寄りと一緒に歌う野由弥香さん(右)。東京都江東区。井手さゆり撮影。

### 自由に意見 査定なし

東京都江東区豊洲のワーカーズコープ「豊北地産福祉事業所」は6年前に活動を始めた。区から委託された放課後の学童保育を運営する。スタッフ13人のうち10人が20代だ。

小野田弥香さん(27)は昨春まで営業の先着だった。音楽を卒業し、あこがれの音楽大を卒業したが、職場の人間関係に疲れた。笑顔を忘れて、中野浩一さん(28)は就活で唯一受かった会社のコピーライターで働いていた。給料はありがたかった。

が単純な仕事にやりがいや成長を感じられず、30歳になれば後悔すると思った。メンバーは以前の職場で上司や先輩に自由に意見を自由に出せる。ワーカーズは自由に意見が出せる。全員が5万円を出資し、立脚は平等。ノルマや査定もない。新卒で入った3年の海田喜奈さん(25)は言う。

「大学時代の友達から『おまえのこのころは甘い、緩い』と言われる。でも、働くのが楽しい。だから、私はこれでいい」。

5年間で1.5倍に 芝山や豊洲のワーカーズで働く若者らが所属する「日本労働連センター事業団」(東京・池袋)は、全国約300カ所の事業所を統括している。

事業団によると、昨年3月末現在で約5,800人が働き、5年間で1.5倍になった。ワーカーズは中高年の働く場だった。45年、新たに加入する人の半分ほどが20〜30代だ。話す。聖学院大の大塚研道教授(社会的企業論)は「フック企業問題の深刻化や雇用の非正規化などで、働くことが自分らしく生きることが断たれ、希望を持っていない若者が増えている。ワーカーズのような働き方を選ぶ若者が、今後増えていくだろう」と話す。

(編集委員・中島聡)